

第2回 横浜市西スポーツセンター指定管理者選定委員会 議事録	
日 時	令和8年8月14日（金）14時～16時30分
開 催 場 所	西区役所4階A会議室
出 席 者	坂田公一委員長、有村知里委員、小澤幸委員、澁谷正道委員、中村由幸委員
欠 席 者	なし
開 催 形 態	一部公開（傍聴者1人） ※プレゼンテーション及び質疑は公開、採点及び指定候補者等の選定については非公開
議 題	1 応募団体の面接審査 2 指定候補者の選定
決 定 事 項	次の団体を指定候補者、次点候補者として選定した。 【指定候補者】ルネサンス・日本水泳振興会共同事業体 【次点候補者】西区スポーツ未来の輪共同事業体 この結果を西区長に報告する。
議 事	《会議の公開・非公開について》 第1回選定委員会の際の決定事項に基づき、面接審査後の採点並びに指定候補者及び次点候補者の選定については非公開とすることを確認した。 《議題1：応募団体の面接審査》 公募状況、面接審査の進め方について事務局から説明があった。 各応募者について、応募資格の欠格事項に該当していない旨及び財務状況については各共同事業体とも特に大きな問題は無い旨、事務局及び委員から報告があった。 最低基準については加減点項目を除く配点合計 103 点×委員数の6割であることを再確認。 【面接審査1：西区スポーツ未来の輪共同事業体】 [質疑] （委 員） 指定管理事業の収支不足を自主事業の収益で補う収支計画となっているが、計画通りの収益を確保できない場合、どのように対応するのか。 （応募者） 赤字の場合は、指定管理者の負担として共同事業体で按分して負担する。収支計画が予定通りにならなかった場合、経費削減の度合いによっては、サービス低下につながりかねず、まずは利用料金収入の増加により黒字を目指したい。 （委 員） 体育室での車いすスポーツについて、種目によっては激しく接触し床を傷つける可能性もあるが、利用可否について伺いたい。 （応募者） スポーツセンターの利用種目とされているものであれば、問題なく利用いただける。他の施設でも傷がつくほどの事例は無く、利用者と相談しながらできるだけ排除しない方向で考えている。 （委 員） トレーニング室改修の提案があるが、改修にどのくらいの期間を要するのか。

	(応募者) マシンの入替えに2日程度で、利用停止が長期になるということではない。 (委員) 障害のある方のスポーツ教室への参加について、インクルーシブな形で一般の方と一緒に参加できるのか、障害者向けの教室を設けるのか、伺いたい。 (応募者) サブアリーナが工事で利用休止中ということもあり、提案書の教室一覧には障害者向けの教室は載せていない。障害者向けには、近隣の作業所等と連携しながら、まずはイベント的なところから実施し、近隣の障害のある方にも使える施設であることを認識してもらう。インクルーシブな形でイベントを実施することは他の施設でも実績がある。 (委員) 4団体の共同事業体ということだが、指定期間中の事業継続性の面で、経営環境に大きな変化があった時にどのように対応していくのか、補完体制などを伺いたい。 (応募者) 代表団体、構成3団体とも、指定管理施設やスポーツ施設の運営について、各社がノウハウを持っており、事業を継続することについては問題なくできるものと認識している。 (委員) 4社でそれぞれの専門性を発揮してとのことだが、意思決定の方法、責任の所在について伺いたい。 (応募者) 各社の専門性に基づく判断を尊重しながら、最終的には、代表団体が意思決定する。定期的に会議等で意思疎通を図り、それぞれの力が出せるようにしていく。既にイベント等での連携の実績がありコミュニケーションの心配は無い。 (委員) こどもの居場所づくり事業について、西スポーツセンターの中で、例えば夏休み中にどのようなことができるのか、具体的なイメージを持っているか。 (応募者) サブアリーナ、研修室の空き枠や、今工事で使用していない場所等を活用し、宿題の見守り等の実施を想定している。親が仕事に行っている中、安心してこどもを預けられる環境づくりをしていきたい。 (委員) 授乳室設置の提案があるが、具体的な規模や場所について伺いたい。 (応募者) 区役所にも設置事例のある可動式個室授乳室を、3階プールの入り口かサブアリーナの前等に設置するイメージである。 (委員) 災害発生時の対応について、川の氾濫等も考慮し近隣住民の受け入れについてはどういう考えを持っているか、受入れ人数含め伺いたい。 (応募者) 災害発生時には、区役所と連携を取りながら、状況によって判断していく。地震の場合、一次避難として施設から出ていただいたうえで、施設職員が建物の安全確認後、建物内に避難してもらう。一時避難場所として帰宅困難者の受け入れを行う。地域住民の受け入れ人数については、施設規模を踏まえマニュアルを作っていく。浅間台小、岡野中など近隣の指定避難所など、地震・浸水時等事象別に想定した避難訓練等を通じ、コミュニケーションを図りながら対応したい。 (委員) 最近、近隣のフィットネスクラブがいろいろできている中、西スポーツセンターが担う役割をどう考え、存在感をどう示していくのか、伺いたい。
--	--

(応募者) 公共施設なので、スポーツのすそ野を拡大し、初めて利用する方にもし
っかりフォローができることなどが役割と考えている。

(委 員) 利用していない人にも来てもらうように、どのように促していくのか。

(応募者) プロスポーツチームのコンテンツを生かし、プロ選手やチアリーダーと
一緒に体を動かす企画等からスポーツ参加への入り口を広げたい。

(委 員) 西区ではモルックの普及を考えているが、中高生や一般向けのモルック
教室を考えているか。

(応募者) 代表団体の指定管理施設で2年前からモルックの定期教室を行っている。
実施することは可能であり、さらに付加価値を付けることが可能である。

【面接審査2：ルネサンス・日本水泳振興会共同事業体】

[質疑]

(委 員) 次期指定期間に優先課題として取り組みたいことがあれば伺いたい。

(応募者) 地域連携の取組をさらに強化していきたい。近隣の学校、企業、地域ケ
アプラザ等との連携を進め、地域に根差した利用環境を作っていく。また、
安全面に関し、重大事故ゼロを維持し、ヒヤリハットの対応をさらに強化し
ていきたい。

(委 員) 車いすのバスケやハンドボールの利用をすることは可能か。また、車い
す利用者が床に傷をつけることがあった場合、利用者の弁償にならないか。

(応募者) 利用は可能。障害者バスケットボール体験会の実績があり、今後も継続
していきたいと考えている。事前に打ち合わせを行い利用内容等の確認をす
るため、利用者の方に責任を負わせるようなことは無い。

(委 員) 西スポーツセンターには授乳室が無いが、これから設置する考えはあるか。

(応募者) 現状、希望があった場合は、3階のプール更衣室をご案内している。また、
研修室に比較的空きがあるので、そこをご利用いただくことも検討している。

(委 員) パラスポーツ指導員を1名から3名に増やすとあるが、その指導員をど
のように活用していくのか。

(応募者) 現在の指導員は館長1名だが、今後は、3名に増やし、障害のある方が
プールを安全に利用できるようにすると共に、館長不在時にも対応できる環
境を整える。

(委 員) 障害者の教室参加については、一般の教室の中にインクルーシブな形で
一緒に参加してもらって、その指導員が対応するのか、若しくは障害者向け
教室の開設を検討しているのか伺いたい。

(応募者) 現在の教室参加者にも耳や目の不自由な方がいれば、館長と講師が調整
して対応を検討しているが、指導員を3名に増やすことで、スタッフに対す
る周知を含め精度を上げていけると考えている。

(委 員) 利用人数について、最終年度の利用者を37万人としているが、具体的

な根拠を教えてほしい。

(応募者) 今回、西区の地域課題として、高齢化、地域コミュニティの活性化、多文化共生、子育て支援を取り上げており、5年間のロードマップにおいて、これらに関係する方々を、利用ターゲットとして考えている。65歳以上の一人暮らしの方、認知症予防、外国籍の方、こどもや親子、低体力者にも参加いただける環境を整える。それらの取組を踏まえた目標数値としている。

(委員) 3 (3) スポーツ教室の計画に、休眠層掘り起こし、とあるが、「休眠層」というのは具体的にどういう層のことか。

(応募者) コロナ前の利用状況に今期は到達できていないが、コロナ禍で運動する習慣がなくなった方、これを「休眠層」と捉え、この利用者数の差に表れていると考えている。利用状況や利用者アンケートを見ていると、先ほど述べたターゲットの方についても、休眠層として掘り起こしができるのではないかと考えている。

(委員) 西区はモルックを普及しようとしているが、区とタイアップして中高生や一般向けの教室等を設け、モルックを普及するという発想はあるか。

(応募者) 岡野公園でモルックをやっているのをよく見るが、協会の方とつながりながらイベントを実施したいと考えており、これも目標人数に向けて地域の参加を増やす一つの行動と考えている。

(委員) プールの水を飲み水として利用するというのは、具体的に実施が決まっているのか。

(応募者) 実施を前提に提案しているものであり、プールの水を機械に通し生活用水として利用できるようにするもので、収支計画にも落とし込んでいます。

(委員) 消防局との連携協定があるので検討していくとあるが、どのようなことを検討していくのか。

(応募者) 代表団体のスポーツクラブと市の消防局が連携協定を結んでおり、西スポーツセンターについても同様の協定締結に向けすり合わせを行っていく。

(委員) この地域は地震だけでなく、水害も想定される。それに対応した計画はあるか。また、災害発生時には、まず利用者の帰宅困難の対応等はあると思うが、その後地域住民への対応を考えているか、伺いたい。

(応募者) このエリアは東日本大震災の際、液状化と地盤沈下が実際にあったと聞いており、帷子川が浸水した場合の対応も検討している。過去の被災状況も踏まえた避難計画について、防災訓練を行っている。発災時は館長が2時間以内に出勤して誘導できる体制を考えている。西スポーツセンターは2階にあるため、水害に対しては安全だが、地震の際は2階3階を避難場所とする形で訓練している。

(委員) こどもたちの居場所づくりについては考えているか。

(応募者) サブアリーナの前のスペースに学習スペースを作りたいと考えており、こどもたちのコミュニティスペースになればと思っている。実際に、雨の日などにこどもたちが2階のエレベーター前の椅子でゲームをしている様子

を見かけるので、屋根があって空調も効いている場所を確保することが、子育て支援や地域のコミュニティの上で大事だと思っている。

【採点結果】

順位	団体名	得点
1	ルネサンス・日本水泳振興会共同事業体	406.6/615
2	西区スポーツ未来の輪共同事業体	390.8/615

《議題2：指定候補者及び次点候補者の選定》

審査の結果、1位の「ルネサンス・日本水泳振興会共同事業体」を指定候補者とし、2位の「西区スポーツ未来の輪共同事業体」を次点候補者として選定することと決定した。

[講評：指定候補者 ルネサンス・日本水泳振興会共同事業体]

- ・現実に即した手堅い提案がなされており、現状に満足せず課題意識をもって実直に施設を管理運営している点が強く感じられ、安心して任せられるとして各委員から高く評価された。
- ・特に、地域連携や安全面の取組について、評価する意見があった。
- ・こどもの居場所づくりや障害者の対応等の質疑応答においても、実態を踏まえた実現可能性の高い回答があり、施設を訪れる利用者のことをよく見て考えていると感じられた。
- ・地域課題の解決と関連付けた利用者数の目標設定については、若干根拠が不明瞭な面はあったが、課題を一つずつ着実に解決していく姿勢が示されており、今後の実績に期待したい。
- ・また、利用者数の増加に向けて、より意欲的な取組が展開されることを期待する。

[講評：次点候補者 西区スポーツ未来の輪共同事業体]

- ・共同事業体の構成各者の専門性を生かした高い提案力が感じられ、具体的に西スポーツセンターでどのような新しい取組をしていくのかといった、多彩な提案がなされた。
- ・プロバスケットボールチームの特性を生かした提案等に魅力を感じさせるものがあり、集客面での効果も期待できるとの意見があった。
- ・一方で、提案内容の実現性や西区という地域性、西区で活動する団体の実情に十分即した内容であるか、また、強い個性のある4者の意思疎通や事業推進体制、自主事業に依存した収支計画といった点に不安を示す意見があり、評価が伸び悩んだ。